

第2回東海市3R活動地域推進員会議（報告）

とき 令和8年（2026年）2月13日（金）

午後6時30分～

ところ 東海市芸術劇場4階 中練習室1

1 出席者

(1) 推進員（4人）

緑陽コミュニティ 早川 松之 様

名和コミュニティ 永田 康和 様

平洲コミュニティ 坂野 栄生 様

三ツ池コミュニティ 金原 大悟 様

(2) 事務局（リサイクル推進課）

林課長、小島統括主任、伊藤主任、山岸主事補

2 欠席者

渡内コミュニティ 河本 信幸 様

明倫コミュニティ 今井 剛 様

富木島ふれあいコミュニティ 成瀬 敏彰 様

船島コミュニティ 高松 尚次 様

大田コミュニティ 久野 一規 様

横須賀コミュニティ 小竹 紀夫 様

加木屋コミュニティ 伊藤 孝子 様

加木屋南コミュニティ 重野 美香 様

3 傍聴者

0人

4 会議録

(1) あいさつ

(リサイクル推進課長よりあいさつ)

(2) 議題

ア 地域で実践された3R活動等の報告について

(資料1に基づき緑陽コミュニティ早川様から時計回りに説明)

【早川委員】

取り組みとしては、前年度にリサイクル推進課からもらったリチウムイオン電池の啓発ポスターを各町内会の掲示板、千鳥防災センターにある乾電池回収ボックスがあるため、そちらに掲示した。また、電池を不燃ごみで出さないよう町内の集まり等で呼びかけをしている。

南柴田にある子ども遊園広場で剪定した木をリサイクルセンターへ持ち込ませてもらった。

6月、8月、10月、1月のイベントでごみの分別をおこなった。

月1回のコミュニティの集まりで各班長へ啓発ポスターの掲示等を依頼した。

【二村委員】

10月に名和コミュふれあいスポーツを開催し、そこでキッチンカーを4台出した際にごみの分別を呼び掛けたが、みんなしっかりできていた。

また、各自治会で毎月資源回収をしており、リチウムイオン電池と乾電池を別々に回収するようにしたが、みんなしっかり分別して持ってきてくれるようになった。

近々、公民館まつりでバザーを実施する予定のため、その際にもごみの分別を徹底していきたいと思っている。

【坂野委員】

東海市3R推進協議会へ2回出席した。

公民館まつりで子ども会と共同でバザーを実施し、その際に3Rの啓発チラシを配布した。この時は、市からのチラシの配布がまだだったため、コピーを配布した。

市からもらった3R啓発チラシは各町内会・自治会で回覧・掲示をおこなった。

各町内会・自治会で資源回収を実施しているが、ある時コンビニから資源回収ボックスを設置したいと話があった。町内会・自治会での資源回収量が減少傾向にあることもあり、できれば設置をしないで欲しい旨を伝えたところ、設置はなくなった。今後、回収量はさらに減少していくと予想されるため、何かしらの対策が必要になってくる。資源回収を無くしてしまうと、車を持っている人は他の場所へ持ち込みができるが、持っていない人は資源を出す場所がなくなってしまうため、回収頻度を減らすなど、様々な方法を検討していく必要がある。各コミュニティでも何か良い方法があれば教えていただきたい。

【金原委員】

7月末と11月に大型のフェスがあり、ごみの分別を徹底した。子どもから年配の方まで幅広く参加してくれるイベントだったが、大人はしっかり分別ができていた反面、子どもに関しては分別がされていないことが多々あった。その際には、ごみ捨て場についているコミュニティの人がその都度子どもたちへ正しい分別を教えていたので、今後、子どもたちの分別意識も高まり、より一層ごみの分別が徹底されることに期待したい。

また、三ツ池コミュニティでも2か月に1回資源回収をおこなっている。こちらも高齢化が進んでおり、暗黙の了解で、75歳以上の人は町内会の役割を降りることができるため、数少ない若い人たちに資源回収の役割が回ってくるペースがとても速くなっており、資源回収の頻度を減らすか無くすかという話題も町内会・自治会内で挙がっている。回収方法については、動ける若い人が回収場所まで持って行

けない年配の人の家を車で周って回収している。事前に資源回収について回覧し、回収希望者を把握している。

【事務局】

外に事前に置いてあるものを回収するのではなく、家まで直接取りに行くのですか。

【金原委員】

家まで直接取りに行っています。

【事務局】

他のところでは外に事前に置いてあるものを回収して周る方法は聞いたことがあるが、直接は大変ですね。

【金原委員】

私のところは直接だが、自治会の規模が小さいからできることだと思う。規模が大きいところで端から端まで動くとなると厳しいと思います。

【事務局】

実際、資源集団回収については、各町内会・自治会・子ども会も大変苦労されているが、回収業者においても1回あたりの回収量の減少により、回収の実施が苦しくなってきた。そのため、最近では回収業者向けに制度の見直しをおこなっていた。今後については、実施団体の負担を軽減したり、うまく回収できる方法を他市の実施状況を調べるなどして模索していきたいと考えている。また、三ツ池コミュニティさんが話したような回収方法の実例等を3月初めにおこなう集団回収の説明会で共有したいと今回の話を聞いて思いました。

【金原委員】

各委員さんの話を聞いていて、コミュニティで電池を回収しているところがあるのを知った。三ツ池コミュニティでは電池の回収をしておらず、最近では電池の回

収場所が少なくなっているように感じる。電気屋でも、前までは回収ボックスがあったが、現在はその店で買ったものでないと回収してもらえなくなった。あとは市役所に持って行くなどで、乾電池を捨てるハードルが高くなっているように感じます。

【事務局】

捨てるのは普通の乾電池ですか。

【金原委員】

そうです。

【事務局】

普通の乾電池の場合は、市内に100ヶ所近く回収ボックスを設置しています。

ホームページにも掲載しているため、探してもらうと良いと思います。

【金原委員】

そうでしたか。わかりました。

いつも電気屋やホームセンターに持って行っていたので、店内で買ったものでないと回収してくれないところばかりで、捨てるハードルが高いという話と家庭内でしていた。そのため、コミュニティ内で回収してくれるところがあればとてもありがたいと感じたので提案してみたいと思いました。

【事務局】

主に、公民館、市民館、児童館、郵便局や公共施設に黄色の回収ボックスを設置しております。

【早川委員】

ボックスの設置に気付いていない人もいると思う。掲示板等に設置場所を掲載しているが、それでも知らない人はいる。実際、私もこの役をやるようになってから

回収ボックスの設置に気付いたくらい場所自体が知っていないとわからないような場所にある場合もあります。

【金原委員】

わかりました。私も注意深く見てみるようにします。

【早川委員】

先程言っていた、75歳以上の方は脱退というのは町内会・自治会辞退を脱退するのではなく、役だけを脱退するという意味ですか。

【金原委員】

その通りです。

【早川委員】

ただ、同居されている方についてはどうなるのですか。

【金原委員】

その方については引き続きやってもらっている。75歳以上の方のみが暗黙の了解で役を脱退でき、やりたい方については引き続きやってもらっています。

【二村委員】

先程、資源集団回収の話のなかで、業者さんの回収量が減ってきていると言っていたが、私の場合は、現在名和紙業が回収しており、お願いしている以上、減らさない方が良くないかと思いきや来年度も毎月実施する予定でいるが、回数を減らしてもいいものなのではないでしょうか。

【事務局】

回収業者としては、回収実施のための前日準備や当日の回収のための出勤に係る諸々の経費に対して回収量が少ないという点で負担になっているため、1回の回収量が増える方がありがたいと思います。

【二村委員】

では2か月に1回にしてみます。役員としても出ていく回数が減る方が楽なので減らしてみます。

【早川委員】

名和コミュニティさんの話で、キッチンカーを出してごみの分別をしたとあったが、これは分別したのは業者かボランティアのどちらでしょうか。

【二村委員】

両方です。キッチンカーの周りにあるゴミ箱については、業者が分別をおこない、こちらでお菓子や飲み物を渡した分にはこちらの役員が回収しました。

【早川委員】

緑陽コミュニティでは、8月の盆踊りと1月の新春緑陽ひろばのごみ分別のボランティアは中学生の方をお願いをしているが、なかなか分別しにくいのか迷うのか、分別されずにごみが捨てられてしまう場合がある。捨てる場所によっては、食べ物の残りを入れられてしまうと困る場合もある。そういった面で業者さんの横にあるゴミ捨て場は業者さんが、それ以外はコミュニティが分別する点が気になりました。

【二村委員】

今回はキッチンカーが4台と数が多くなかったので、ごみは買ったところで捨てるように徹底しました。

【早川委員】

参考にさせていただきます。

イ 来年度の3R啓発チラシについて

(事務局から資料2に沿って説明)

【事務局】

ただいまご説明した内容につきまして、ご意見やご質問等ございますか。

【坂野委員】

リチウムイオン電池の出し方についてですが、リチウムイオン電池に限らずに電池の出し方にすればよいのではないかと。先程、電池の回収場所が分からないという話もしていたので、そもそも回収場所が他と異なる電池全体を取り扱い、回収場所等も記載するなかで、リチウムイオン電池についても触れるというかたちにすればよいのではないかと。リチウムイオン電池と乾電池と一緒に集まることにはなるが、見分けが付きやすいのでその後の分別は容易いと思うがいかがでしょうか。

【事務局】

リサイクルセンターへ持ち込まれるリチウムイオン電池のなかには、ひどく膨れ上がり発火の危険性が高まってしまっている状態のものもあるため、こういったものを市内に設置しているボックスで電池と一緒に回収するのは危険だと感じております。

【坂野委員】

では、回収方法はまた別として、リチウムイオン電池を含め電池全体の広報をしていただけたらいいのではないかと思います。

【事務局】

電池回収ボックス設置場所の一覧表をQRコードで添付したりできるため、そういった形でリチウムイオン電池にプラスして電池の内容も再周知していきたいと考えております。

【二村委員】

令和6年度啓発チラシの「リチウムイオン電池の出し方」を見たが、ワイヤレスイヤホンやハンディファンもリチウムイオン電池が入っているとは知りませんでした。

【事務局】

充電ができるものについては基本的にリチウムイオン電池が入っております。

【二村委員】

では、こういったものも捨てる時は不燃ごみではなく、リサイクルセンターや特定の回収場所に持って行く必要があるのでしょうか。

【事務局】

その通りです。

【二村委員】

こういった製品もコミュニティで設置している回収ボックスでリチウムイオン電池や乾電池と一緒に回収して、リサイクルセンターへ持って行けば良いのでしょうか。

【事務局】

自主的にやっていただけるのであれば、大丈夫です。ただ、市側で回収をしている電池の回収ボックスの場合は、回収までに日数を要するため、そこにリチウムイオン電池を入れると発火する危険性があるので入れないでいただきたいです。

【二村委員】

分かりました。

リチウムイオン電池については、再度啓発チラシとして出していただきたいです。

(3) その他

(事務局から資料3に沿って説明)

令和8年度の3R推進協議会委員への選出委員は輪番制により平洲コミュニティから選出することに決定。

【事務局】

もう1点、先程まで話していた啓発チラシとは全くの別物ですが、現在、多言語版の「ごみと資源の出し方」を作成しております。こちらは、外国人の方が住まわれている地域で掲示・回覧、または個別に配布するなどの活用を想定しております。4月以降から住宅の管理人の方やコミュニティの方等の希望者へ配布を予定しております。言語としては、ベトナム語、中国語、タガログ語（フィリピン）、韓国語、インドネシア語、タイ語、ネパール語、ポルトガル語、ミャンマー語、英語、台湾語に加え、障がいのある方でも読めるようなやさしい日本語を含めた12言語を作成いたしました。4月から市HPにも掲載し、HPからも取得していただけるような運用を考えております。サイズはA4、A3の2種類をご用意しておりますので、ご希望の方はぜひ活用していただけたらと存じます。

【早川委員】

そのチラシの希望はいつまでにとというのはあるのでしょうか。

【事務局】

ありません。お話をいただければリサイクルセンターで随時配布をさせていただきます。

終了